

5月15日(火曜日)

5:30/7:15 弥山小屋(0:30/0:28⇒八経ヶ岳)

昨夜、スマホにバッテリー充電しようとしたら、スマホとバッテリー間の接続線が断線しているようで、充電できなかった。朝、宿泊者に確認したら、ポビーが iPhone コンセント用の接続線を所持していたので、借りて充電することにした。ただし、彼も寝ている間に充電を予定していたが、電気を切断されていて充電できず、朝通電してから充電を始めたとのことだった。彼の充電が終わってから充電。70%ほど充電したが、出発時間が大幅に遅れたので、そこまでの充電とした。従って、利用は極力抑えることにした。写真は最小限、トラックの記録は無、LINE での交信は最小、機内モード継続など、緊急時に備えてバッテリーは極力セーブすることにした。ポビーも私の充電に付き合ってくれて大変助かった。

夏が開花の時期だが、オオヤマレンゲの自生地はネットで覆われていた。この八経ヶ岳の登りで、若い男性が追い越して行った。

6:10/7:42 八経ヶ岳(第 51 靡 0:20/⇒6:35 明星ヶ岳)着 7:50 頃発



7:42 八経ヶ岳山頂からのパノラマ



7:42 弥山遠望



7:43 八経ヶ岳山頂(第 51 靡)

6:35/8:10 頃 明星ヶ岳(第 50 靡 2:00/2:00⇒舟ノ峠(ふなのたわ))



明星ヶ岳分岐(借用 5/20 撮影)



明星ヶ岳分岐全景(借用 2009/8/7 撮影)

明星ヶ岳は登らず、分岐から右手斜面を巻いて進む。尾根道に戻り少し下り始めると前方に小ピークが見える。八経ヶ岳の登りで追い越して行った若者が立ち止まって、地図らしき資料とコースを見比べ続けている。

声をかけると、トレースが分かれているらしい。直登と崩壊地に向かって巻いているトレース。巻いているトレースが正規のルートなようだが崩壊地が邪魔をする。直登にも踏み跡があったので、私は直登することにし、先方は崩壊地方向でルートを探す。直登は、岩尾根に登りあげ、先は切れ落ちていてルートは見当たらない。やぶ漕ぎ的に右手の巻道方向に強引に進むと、再度岩尾根を越えた。その先に濃いトレースがあった。先方に声を掛け合流。後で調べるとルートは崩壊地で消え、崩壊地をトラバースするトレースに代わっていたようだ。



五鈷峰手前の崩壊地(借用 2009/8/7 撮影)



五鈷峰(借用 2009/8/7 撮影)

9:00/10:10 頃 舟ノ峠(第 46 靡 ふなのたわ) (0:30/0:30⇒(楊枝ノ森)⇒9:35 楊枝ヶ宿)

二重山稜の窪地をルートは伸びていた。「舟の多和」との天理大学 WV 表示の黄色い標識があった。



舟ノ峠(借用 5/20 撮影)



舟ノ峠(借用 2009/8/7 撮影)

9:35/10:40 楊枝ヶ宿(第 44 靡 1:10/1:06⇒孔雀観)着 10:55 発

小屋に入るとザックが 2 個置いてあった。水場まで往復することにした。小屋の右手を戻る方向に水平に歩いた後、なだらかな斜面を下る。沢のように流れる豊富な水量の水場があった。二人の年配登山者も水汲みに来ていた。



楊枝ヶ宿(借用 5/20 撮影)



楊枝ヶ宿(借用 11/26 撮影)

11:40頃 鳥の水着 11:55 発「孔雀観」まで歩くつもりだったが、歩くルーとのすぐ脇に冷たそうな水場があった。少し飲んでみると美味しかった。水の補給も兼ねて大休止。「鳥の水」との表示があった。



鳥の水(借用 2009/8/8 撮影)

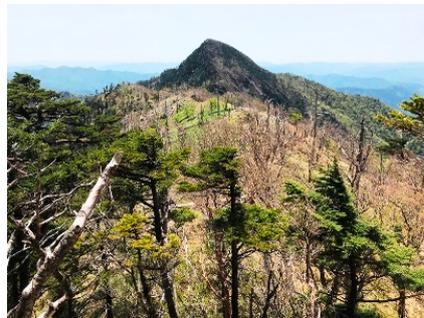


孔雀岳(借用 11/26 撮影)

10:50/12:16 孔雀観着(0:25/0:34⇒11:20 椽ノ鼻(えんのはな))



12:16 孔雀観



12:21 釈迦ヶ岳遠望

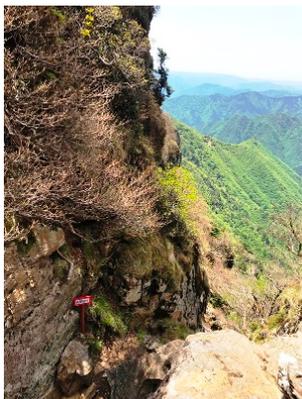


12:21 釈迦ヶ岳遠望アップ



12:17 孔雀観パノラマ

12:39 両部分け



12:39 両部分け



両部分け(借用 2009/8/8 撮影)

11:20/12:50 椽ノ鼻(えんのはな)着(0:45/0:55⇒12:20 釈迦ヶ岳)13:00 頃発



12:50/椽ノ鼻

12:53 空鉢岳(くうはちだけ 第41 靡)



12:53 空鉢岳



釈迦ヶ岳へはこの岩場を越える

両部分け(借用 2009/8/8 撮影)

13:38 馬の背



モアイ? (借用 5/20 撮影)



13:38 馬の背



釈迦ヶ岳登り(借用 5/20 撮影)

12:20/13:55 釈迦ヶ岳着(しゃかがたけ、1799.6m 第40 靡)着(0:35/0:42⇒13:00 深仙ノ宿)14:15 発
山頂に、立派な釈迦如来像が建っている。立っている釈迦如来で、背中側に後光のような輪が付いているのもあまり見かけない像だと思った。天候も良かったので、景色を眺めながらしばらく休んだ。

釈迦ヶ岳は今日最後の大ピークだ。ここから前鬼まで下りが続く。圏外だったので報告は後日とし、写真のみ。この釈迦如来像は大正13年に、大峯開山以来の強力「岡田雅行」が一人で担ぎあげたとは下山後分かった。また、座位座に記されている南無釈迦牟尼仏や釈迦如来像は以下口内のような意味だった。

南無釈迦牟尼仏とは、釈迦牟尼仏に帰依しますという意味です。釈迦牟尼仏は、お釈迦さまのことです。また「生まれてすぐに7歩だけ歩いて、右手で天を、左手で地を指し、『天上天下唯我独尊』と唱えた」との伝説があり、『天上天下唯我独尊』とは、「誰もがみんな、ただ一人の尊い存在である。」との意味だと解説されている



13:55 釈迦ヶ岳・錫杖(左奥が八経ヶ岳と弥山)



13:55 釈迦ヶ岳・釈迦像



14:02 釈迦ヶ岳展望_パノラマ



14:48 都津門(とつもん 第39 扉)か



14:48 アケボノツツジと遠望



14:50 アケボノツツジ満開

13:00/14:57 深仙ノ宿(じんせんのしゆく 第39 扉)着(0:35/0:33⇒13:40 太古ノ辻)15:25

釈迦ヶ岳から下り始めると、徐々にピンクの花が見られるようになった。アカヤシオのようだが、地元の登山者がアケボノツツジと呼んでいたもので、きっとそうだろうと思った。

ほどなく深仙ノ宿が見えてきた。行くと既にボビーがリラックスした状態で休んでいた。彼の今日の宿泊地なので、ゆっくりしているようだ。年配の女性を含むグループが登って行ったとか花が綺麗なので写真を撮るべく撮ったとか話してくれた。またこの小屋内で、スマホに充電可能とのこと、充電を進められ、予定時間を大幅に遅れている心配はあったが、充電することにした。ソーラー発電で充電できるようだった。

充電している間、水場に行こうと言うと、彼は知らなかったようで、一緒に行き、岩場から滴り落ちる「香水水」を空いている容器に十分汲んだ。「水場」と書いてある標識が読めなかったようだ。分れる前にメールアドレスを交換し合って、連絡し合うことにした。



14:57 深仙ノ宿



15:42 大日岳への登りとアケボノツツジ



15:43 大日岳巻道

15:48 大日岳(だいにちだけ 第35 靡)分岐



15:48 大日岳分岐標識



15:48 大日岳分岐



15:56 大日岳のアケボノツツジ



15:57 大日岳のアカヤシオアップ

アケボノツツジ

ツツジ科の落葉大低木。高さ2~6メートルで樹皮は淡灰褐色、滑らかで枝に毛がない。4~5月、葉の出る前に枝先に径約5センチメートルの桃色花が開く。花柄に腺毛(せんもう)がなく、花冠は五裂する。裂片は広倒卵形で雄しべは10本あり、花糸に毛がない。

変種のアカヤシオはアケボノツツジに似ているが、花柄に腺毛が多く、雄しべ10本のうち5本は、花糸の基部に微毛がある。本州の福島県以南に分布する。

13:40/15:58 太古ノ辻着(1:30/1:40⇒15:40 前鬼(小仲坊))

太古ノ辻に着いた。「これより 大峯 南奥駈道」と書かれた大きな標識があった。北奥駈道の終点だと思い感慨深く標識を見、さらに南奥駈道も歩いてみたいとの衝動にかられた。明るい内に前鬼に着けるかを心配しながら先を急いだ。



15:58 太古ノ辻



15:58 太古ノ辻標識



16:00 南奥駈道標識



16:13 シロヤシオ



16:13 シロヤシオアップ



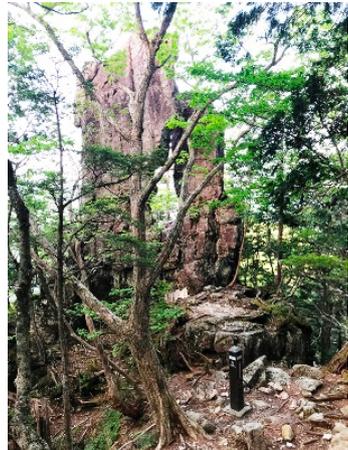
16:23 大峯縦走線歩道標識



16:31 シロヤシオ満開



16:31 シロヤシオ大木



16:58 二つ岩

16:58 二つ岩(ふたついわ 第33 靡)着 17:10

太古ノ辻から下り始めると、大きく満開のシロヤシオの花が目に入った。見事な枝ぶりだった。一方下りルートとは途切れ途切れに長い木製の階段が続き、長く感じた。階段があるとルートを見失う心配はないのだが疲れた。やがて木道がなくなるとルートが分かりづらくなった。地図には道迷いし易い旨注記があったので、木に巻いてあるテープなどを注意深く探しながら下った。やがて宿坊跡の標識があり、前鬼に到着した。

15:40/17:58 前鬼・小仲坊着泊

なんとか明るい内に小仲坊に到着でき、早速付近を確認。宿泊所には鍵は掛かっておらず、布団が一人分敷かれていた。トイレと水場を確認し、夕食。私より先に降りた若い人は、ここには居なかった。どうしたのだろう。宿泊料金を投入する箱が壁に掛かっていたので、住所など連絡先や料金を袋に入れ投函した。夕食後朝食の準備をして就寝。大きな部屋の周りは窓で、外の薄明りが見えて不気味な感じがした。布団に入ると疲れていたのかすぐに寝付いた。



17:57 前鬼・小仲坊



17:58 小仲坊・宿泊所



17:58 小仲坊・トイレ